

# 琉球の美

—首里城で感じる“ホンモノのモノ”—



すいむいかん  
首里城公園内 首里杜館

令和3年  
(2021年)

11/21  
日

プレス DAY\*

11/22  
月

11/23  
火祝

12/25  
土

12/26  
日

一般販売

開場/16:30  
開宴/17:00  
終宴/19:00  
(各日とも)

\*プレスDAY:マスコミ・関係者様限定

ご予約／お問い合わせ

特別な琉球菓子とお茶のご提供付き 7,000円(税込)

主催:一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室/琉球紅型展示・解説:一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアム  
琉球菓子提供・琉球料理解説:一般社団法人琉球料理保存協会/琉球史解説:公立大学法人 沖縄県立芸術大学  
後援:一般財団法人沖縄美ら島財団・一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー・一般社団法人那覇市観光協会

※新型コロナウイルスの感染状況により日程が変更となる場合がございますので、右のQRコードより最新の日程をご確認ください。





# 『琉球の美』—首里城で感じる“ホンモノのモノ”—とは

一般社団法人  
琉球伝統芸能デザイン研究室  
Webサイト



琉球王国時代の象徴「首里城」は、城郭内下の御庭（しちやぬうな）にある“首里森御嶽”（すういむいうたき）からのお告げ…「ここに城を建てることにより、国家が安定・発展する」により、建立されたと云われています。約500年間続いた琉球王国は、諸外国との交易を盛んに行い、古の先人たちはまさに外交のプロでした。

決して武力を用いるのではなく、文化芸術を通して…。

その時代に構築された様々な文化芸術は、まさに「美」そのものであり、世界に誇れる文化遺産だと考えます。「丁寧な暮らし方」が求められている現在、首里城にて琉球王国時代から連綿と続く“ホンモノのモノ”を感じていただきたく、「琉球の美」をご提供いたします。

現在は、劇場等での琉球伝統芸能の上演が主流となっておりますが、琉球王国時代は、首里城を中心とした様々な空間において、その場かぎりの舞台空間を設置したといわれています。また、設置においては首里城から畳を搬入したともいわれています。

今回は、当時の空間再現を意識し、現在では貴重となった「琉球ビーグ」（い草）による舞台空間を創出しました。また、三線演者は、首里城破損瓦利活用アイデアに基づく、破損瓦と極薄コンクリートで仕上げた「Una-」（御庭）にて演奏を行い、その背面には現代アートの屏風を組み合わせます。更に、舞演者の衣装は、今回特別にびんがた工房で代々受け継がれている紅型衣装を使用し、「伝統」と「革新」による「リデザイン」となります。

—首里城で感じる“ホンモノのモノ”のモノ—

ホンモノを鑑賞



## 『感じる美』

琉球王朝時代に構築された“ホンモノ”の魅力をリデザイン。  
復興中の首里城にて、「3つの美」で高貴な“うとういむち（おもてなし）”。

ホンモノを体験



## 『祈りの美』

祈ること…人類が行う、最も美しい姿かと思えます。人々の様々な思いを祈りに託し、豊かな心を呼び起こします。

「守礼門」近くにある「園比屋武御嶽石門」（そのひゃんうたきいしもん）は、沖縄で唯一の世界遺産に登録されている石門で、琉球王国時代国王自らが、石門前で礼拝し、旅の安全等を祈願したといわれています。なお、石門のみならず、石門裏の木々の空間が聖域として重要視されています。

ホンモノを食す



## 『味わう美』

琉球王国時代、数々の料理や泡盛で“うとういむち”（おもてなし）をしていました。今回味わっていただくお菓子は、当時中国からの使者たちを歓待した際、実際に振る舞われていた宮廷菓子を再現いたしました。素朴な風味は、下ごしらえに長時間を要します。作り手の想いが、その風味に変化するのです。